

# 障害者支援職員のための自己学習型基本研修プログラムの開発

(指導教員 世木 秀明 准教授)

世木研究室 0431057 坂井 晃典

## 1.はじめに

近年、障害者支援に対する法律・制度の整備により、対象である障害の種類は多様となり、障害の程度も広範となっている。その結果、求められる支援も大きく変化してきている。また、法律・制度の変化は、障害者を支援する職員の雇用形態にも影響を与え、職場にしめる非正規雇用(パート)職員の割合は年々増加してきている。

このように障害者の支援に関する環境の変化に伴い、支援職員の確保とともに職員の障害者に対する支援技術・方法等に関する資質も問われるようになってきた。しかし、福祉現場においては、資金面などの問題から十分に研修を行い障害者支援に関する知識や支援方法・技術を身につけてから現場に入ることが、必ずしも行えていない現状がある。

そこで、本研究では障害者を支援する職員を対象にした自己学習型の基本研修プログラムの開発を目的とした。

## 2.基本研修プログラムのシステム構成

本研究で開発したプログラムのシステム構成を図1に示す。基本研修プログラムや研修結果参照プログラムは、LAN やインターネット経由で利用できる事を考慮し、Flash MX、ActionScript および、データベース操作スクリプト PHP を使用して開発した。また、問題に使用するデータや研修結果は、MySQL で構築したデータベースに保存される。特に、車いすの扱い方など実技学習を行うための動画データ形式は web 配信に適しているとされている Flash Video 形式とした。

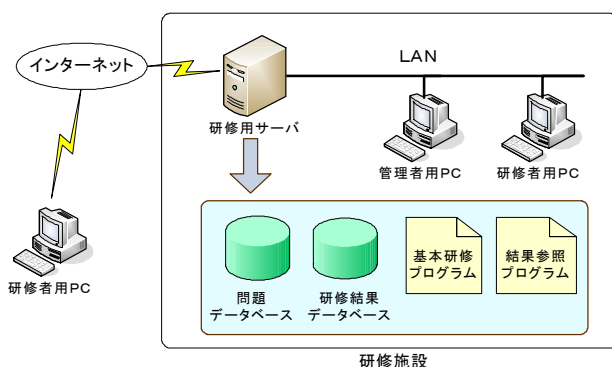


図1 基本研修プログラムのシステム構成

## 3.基本研修プログラムの概要

基本研修プログラムは表1に示すように4種類の学習領域より構成されている。研修は、第1領域より始め、研修者の成績に応じて第2領域、続いて第3領域、第4領域へと学習領域が進行する。研修結果は、データベースに保存される。管理者は、結果参照プログラムで研修に参加する全研修者の研修状

況を確認できる。このため、管理者は各研修者が現在学習している学習領域や成績を把握し、今後の研修指導やスーパーバイズに役立てることができる。

表1 基本研修プログラムの学習領域と学習内容

学習領域	学習内容
1.教育・福祉制度編	障害児・者に対する教育制度や福祉制度についての一般的な知識を習得する。問題の解答方法は、選択
2.障害基礎編	障害に対する基礎的な知識を習得する問題の解答方法は、選択または、穴埋め
3.障害支援編	障害者への支援に対する基礎的な知識を習得する。問題の解答方法は、穴埋め
4.介助編	現場での対処方法や福祉機器の使い方を習得する。ビデオ画像により問題を出題し、解答は選択による

図2に本研究で開発した基本研修プログラムのうち、介助編の問題画面例を示す。図2の画面例は、正しい「車いすの広げ方・たたみ方」を示す動画と共に操作の注意点が別枠で動画および、文字で提示される。研修者は、正しい操作方法を理解した上で問題画面へ移行し、問題の解答を行う。解答が誤答であれば選択した動画と共に誤りである理由が表示される。

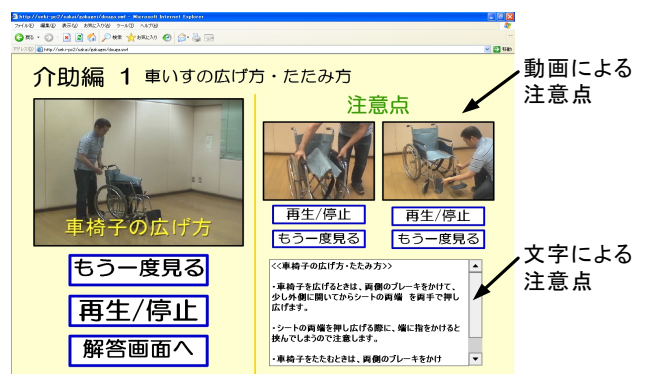


図2 介助編の動画による問題画面例

## 4.まとめ

本研究で開発した基本研修プログラムは、自己学習型のため、研修者が時間や場所を問わず研修を行えることに加え、管理者が研修者ごとの研修進捗や理解度を把握することが可能という特徴を持っている。本プログラムを支援職員養成の専門家に試用してもらったところ、自己学習型の基本研修プログラムとして有効であるという評価を得た。

これらのことから、本研究で開発した自己学習型基本研修プログラムは、障害者支援職員の自己学習に有効であると考えられる。